

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. D-108

<b>部門名:</b> 校内研修プログラム開発・実践部門	<b>エントリー名:</b> 寝屋川市立石津小学校
<b>活動名:</b> エビデンスに基づいた研修 同僚性を発揮するための校内組織	
<b>解決すべき課題:</b> 新学習指導要領の完全実施に向けて求められている資質・能力を育成するための校内課題や教員個人個人の課題に対応するための校内研修の実施。そのために、1.全国学力・学習状況調査を指標として分析したデータから児童把握を行い、校内全体として必要な改善点や視点を明確化上で、教員個人個人が自身の課題を受け止め改善すること。さらには、2.実践の評価検証やデータの収集方法を開発して、エビデンスを持って児童把握を行うこと、3.積み上げてきた[算数科]を柱として研修をすすめ、それを他教科へも一般化していくこと最後に4.教育課程の構成つまり校内カリキュラムマネジメントを確立すること5.校内全員の校内研修への参加の質を高め、喫緊の課題にも(道徳教育・外国語・プログラミング教育)対応することもできる組織をつくること	
<b>目標・方針</b> 算数科の目指すべき児童の力・姿に到達するための授業改善の重点項目を明確化。さらには、算数にとどまらず、カリキュラムマネジメントの視点から、その課題を他の教科領域で取り組めることないかを決定。教員も6年間を意識するために、学年の壁を越えたグループにて校内研修を進める組織を構成。年間の予定をバックワードから計画をする。そして、石津オリジナルパッケージプランに基づいて研修を進めていく	
<b>活動内容:</b> 1.自校の課題、前年度の反省を踏まえたテーマ年間計画の作成 2.教員の縦割り部会編成 3.人権部と児童の実態把握とその共有 4.算数科の研修:研修の基盤として①問題解決学習の展開②考えを深め学び合うための言語活動の充実③学校全体で継続して取り組む指導や活動の充実 5.言語活動をさらに充実させるために研修部と人権部との協働による低学年児童の言語能力の把握、多層モデルMIMの実施、言語活動として校内全体での条件作文の実施 6.評価検証、データ収集方法の決定と評価テストの作成 7.校内研修ループリック作成 8.直近の課題対応(自校の目指す方向性をふまえて)	
<b>活動の成果:</b> 児童の姿:本校が成果指標の一つにかかげている全国学力・学習状況調査においては全国平均より約10ポイント近く向上している。特に、無回答率はほぼ0に近く、学びに向かう力の育成が軌道にのりつつあると考えている。 教員の姿:教員自身の活動の評価指標である校内ループリックでは自身の授業力、指導力を客観し、改善していこうとする姿が見られた。また、自分自身の児童に対する実感は大切にしつつも、目の前のエビデンスで主観に左右されない校内の取り組みが実現し、質の向上が図られた。さらに、同僚性の高まりとともに、10分程度の確認や会議が行われるようになり、働き方改革のヒントが生まれた。加えて、小学校6年間や中学校も含む9年間という俯瞰力が身につけてきている	
<b>アピールポイント(アイデアや工夫):</b> 1.教員による縦割り部会での授業研修会の実現 2.教科研修の枠を超えて、人権部会と協働する児童の実態把握 3.自校研修のオリジナルパッケージプラン作成 4.多岐にわたる教育課題に対応することのできる校内組織 5.エビデンスを活用した研修をすすめるための評価検証からのバックワードからの計画力向上(短時間での会議から、働き方改革の促進/スタンディングミーティング)	

### オリジナルパッケージ研修イメージ

**学校全体で継続して取り組む指導や活動の充実**

**<視点1:指導者の手立て>**

- 児童の実態把握の方法(集団として、個人として) ※毎学期の変容をとらえる
- 児童の理解につながる学習課題、学習具の工夫
- 問題解決学習の各過程における指導の充実と工夫
- 1授業後、1単元後の評価の明確化→ノートをもとに、個に応じた指導、支援の工夫
- 評価テストの検討 → 各学期末テストの実施 → 子の実態把握と教員の指導改善に生かす

**<視点2:児童が考えをもつための手立て>**

- 朝学の時間等、時間の効果的な活用 → 朝の時間割を制定し、集中した環境をつくる。
- 考えの手がかりとなり、意識づけを明確にするための教室内掲示
- 本時の「めあて」、「まどめ」を必ず示す。掲示物を活用する。
- 考えを整理する、深める、説明するためのノート指導 → がんばりノートの掲示
- 順序や因果関係を整理し、筋道立てて説明させる工夫
- ICTを活用した課題等の提示(発表や課題をつかむためなど)

**石津小の課題はどこ?** (国語)

話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、言語事項

**国語 今後の方向性**

学校全体の成果と課題: 「資料の読み取り」

一教科横断的に資料の読み取り、情報判断力・情報選択力の育成

**全国平均に対して一番低いものは? (算数)**

量と測定、数と計算、数量関係、図形

**領域別における課題**

数と計算、図形

**ワークショップ**

目的: 児童の資質・能力を育成するために、チームで2学期の具体的な実践について検討する。

流れ: 日々の授業、寝屋川市到達度調査、学期末テスト

1.児童につけたい力の再確認(再確認)  
 2.2学期の具体的な実践検討  
 3.グループ交流(7分×3)  
 4.2学期の具体的な実践決定

**ワークショップ**

学習課題把握場面でのグループで話し合う時間を設ける

グループで交流する際にメモを加えさせる

ノートをチェックする際コメントで評価する

既習とのつながりを確認する

見通す力の育成

教材研究を行う時間を設ける

見通し方をもう一度確認する

方法と答えの見通しができる振り返らせる

見通しをもてないであろう児童への支援を考へておく

**まとめ**

成果: 丁寧な児童理解、日々の教材研究、チームで行う研究体制

さらなる学力向上にむけて: 数と計算、図形

授業改善、家庭学習、指導計画の工夫等

学力保証(資質能力の向上)

数と計算: 既習をもとに、数のしくみや計算の仕組みを考察する

図形: 図形を構成し、考察する

**チーム 石津で!**

直近の課題に向けて

- 算数科の延長でのプログラミング教育 機器を活用して行うプログラミング
- 教科 外国語にむけての準備

今、やるべきことを明らかにするとカリキュラムマネジメントが不可欠だと全体

低学年からの読みのつまずきをなくし、クラスレポートを人権部、研修部で共有

月1回の条件作文

算数科の目標: 算数的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

図形を構成し、図形の性質、構成の仕方、計量について考察する授業づくり

数のしくみや数量の関係に着目し、児童が既習をもとに考える授業づくり